

提供日 2020/3/12

タイトル 静岡県立大学の入学試験における出題ミスについて

担当 静岡県立大学法人 静岡県立大学

入試室

発信担当者 054-264-5007



静岡県立大学記者提供資料

令和 2 年 3 月 8 日（日）に静岡県立大学において実施した「2020 年度一般入試公立大学中期日程薬学部個別学力検査」及び「2020 年度私費外国人留学生入試薬学部」の「化学基礎・化学」の問題において、出題ミスがあったことが判明しました。

当該設問を全員正解として扱い、得点を与えた上で、合否判定を行うこととします。

なお、本日、本学ホームページにて今回の出題ミスについての説明及び謝罪文を掲載します。

1 出題ミスの概要

(1) 選抜区分、試験実施日及び合格発表日

2020 年度 一般入試公立大学中期日程薬学部 個別学力検査

2020 年度 私費外国人留学生入試薬学部

試験実施日 令和 2 年 3 月 8 日（日）

合格発表日 令和 2 年 3 月 21 日（土）

(2) 試験科目名

「化学基礎・化学」

(3) 選抜方法

大学入試センター試験（配点合計 1150 点）の成績、個別学力検査（1000 点）の成績及び調査書の内容を総合的に判断して選抜する。個別学力検査の試験科目は「物理基礎・物理」400 点、「化学基礎・化学」600 点の 2 科目である。

(4) 当該選抜区分の募集人員及び受験者数

薬科学科 募集人員 26 人 受験者数 158 人

薬学科 募集人員 54 人 受験者数 255 人

合計 80 人 413 人

(5) ミスの内容

大問 4 の問 5 の問題文にある「4 つの化合物」という条件が間違っていた。正しくは「6 つの化合物」とすべきであった。（当該問題は別紙のとおり）

(6) ミスの発見状況

令和 2 年 3 月 11 日（水）に、事後点検を委託してあった学外点検業者より指摘があり、点検・検証の結果、出題ミスであると判明した。

(7) 対応

この問題の正否が合否に影響しないように配慮し、当該設問を全員正解として扱い、得点（配点 20 点）を与えた上で合否判定を行います。

2 原因と再発防止策等

問題作成にあたって解答の検証が十分ではなくミスにつながった。今後、入試調査委員会を設置し、ミスに至った原因の調査をするとともに、静岡県立大学入試問題点検マニュアルの改善及び点検システムの強化を図るなど、再発防止策の強化を進めてまいります。

※県政記者クラブ加入各社のうち、静岡市内の支局に FAX 送信しています。 [送信 3 枚]

学長コメント

令和2年3月8日に実施した「2020年度一般入試公立大学中期日程薬学部個別学力検査」及び「2020年度私費外国人留学生入試薬学部」の「化学基礎・化学」の問題において、出題ミスがあったことが判明しました。

正確であるべき入学試験において、このような事態が発生したことを厳粛に受け止め、深く反省しております。受験生並びに関係者の皆様に、心より深くお詫び申し上げます。

今後は、問題の作成・点検作業において今まで以上に入念な確認を行うとともに、作問・点検システムの再構築を図り、再発防止策の強化に全学をあげて取り組む所存です。

令和2年3月12日
静岡県立大学 学長 鬼頭 宏

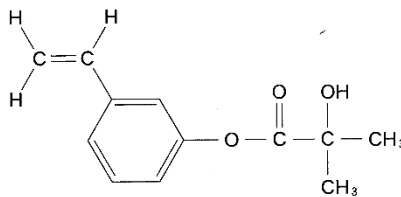
【本件に関するお問い合わせ先】

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

静岡県立大学 学生部入試室

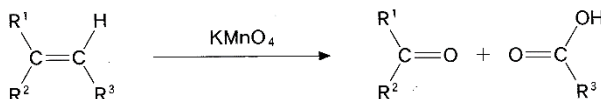
電話 054-264-5007（不通時は総務室取次ぎ 054-264-5102）

- 4 次の文章 I～VIIIを読み、設問に答えよ。構造式は例にならって記せ。



例

- I 化合物 A は分子式 $C_{18}H_{22}O_2$ で表されるエステルである。A をアルカリ水溶液中で完全に加水分解したところ、アルケンをもつカルボン酸 B とアルケンをもつアルコール C が得られた。B は不斉炭素原子をもっていなかったが、C は不斉炭素原子を 1 つもっていた。
- II B はベンゼンのパラ二置換体であり、B を臭素と反応させたところ付加反応のみが進行し、化合物 D が生じた。D は不斉炭素原子を 1 つ有する分子であり、その分子量は 336 であった。
- III B を硫酸酸性の過マンガン酸カリウムと反応させたところ、アセトンが得られた。なお、以下の反応式のように、アルケンが硫酸酸性の過マンガン酸カリウムと反応すると、二重結合が開裂し、ケトンまたはカルボン酸を生じることが知られている。



- IV C を硫酸酸性の二クロム酸カリウムで酸化したところ、ケトン E が得られた。
- V 触媒を用いて C を水素と反応させたところ、水素が付加した飽和化合物 F が得られた。
- VI C のヒドロキシ基の水素をメチル基で置換し、メチルエーテル G とした。そのうち、硫酸酸性の過マンガン酸カリウムと反応させたところ、エーテル部分は反応することなくアルケンのみが反応し、ケトン基を有するカルボン酸 H が得られた。なお、G と H の炭素の数は同じであった。
- VII 1.00×10^{-2} mol を水酸化ナトリウム水溶液中、ヨウ素と反応させたところ、ヨードホルム反応が完全に進行し、黄色沈殿が 3.94 g 生じた。
- VIII V で生じた F は不斉炭素原子をもっていないことがわかった。

問 1 化合物 B の分子量を整数で記せ。

問 2 化合物 B の分子式を、解法とともに答えよ。

問 3 化合物 C の分子式を記せ。

問 4 化合物 D の構造式を記せ。また、不斉炭素原子に * 印をつけよ。

問 5 VIII の情報がない場合、化合物 C の候補として 4 つの化合物が考えられる。それらの構造式をすべて記せ。また、不斉炭素原子がある場合は不斉炭素原子に * 印をつけよ。

問 6 化合物 A の構造式を記せ。また、不斉炭素原子がある場合は不斉炭素原子に * 印をつけよ。